

実践『ペルソナ』通信 (No.3)  
「実践女子大生におけるファッション」に関する調査結果  
～プチプラの認知度は8割、プチプラを意識している人は3割～

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「ファッションの実態」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は41サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当:竹内光悦）」、「経営学（担当:篠崎香織）」、「マーケティング（担当:斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに通う実践女子大学の学生はファッションに対してどのような意識をもっているのかを調査し、41サンプルからの回答を得た。

アルバイトの実施については、約90%がアルバイトをしていて、月に平均64,000円を稼ぎ、自由に使えるお金は平均で48,000円であることが分かった。トップス1着に対して高いと思う金額については、5,000～9,999円の価格帯を選択した人が63%で、その中でも「5,000円」が「高い」という認識の境界になっていることが伺えた。結果、5,000円未満で服を探している人が半数を超えていることがわかった。また、お洒落の価値観については、「自分が良いと思ったものを身につける」と回答した人が43%で、「流行だから」という理由だけで購入する服を決める人は少ないことがわかった(2%)。

プチプラの認知度は80%と高かったが、プチプラを意識した服の購入者は32%であった。欲しい服が予算オーバーだった場合にするかという質問については、「似ている安いものを探す」と回答した人が39%と最も多く、無意識にプチプラ傾向のある購買行動をとっている様子が伺えた。

調査結果のポイント

(1) お洒落への気遣いありは約6割

お洒落に気遣っているかどうかの質問について、「気遣っている」という回答は63%、「気遣っていない」という回答は37%であった。この結果は、今回の回答者特有の傾向なのか、お洒落への気遣いについては、サンプル数を増やして再度調査を試みたい。

(2) お洒落についての捉え方「自分が良いと思ったものを身につける」が6割

お洒落についての捉え方(価値観)について尋ねたところ、「自分が良いと思ったものを身につける」と回答した人が42%、次いで「小物などもうまく使ってコーディネートしている」と回答した人が29%であった。また、「流行のものを身につける」と回答した人は2%であった。この結果は、一先ず流行を追いかけるという人は少なく、自分が好きなものを着る、流行のもので自分がよいと思えば購入

するという認識であると解釈できる。

(3) プチブラの認知度は80%だが、意識している人は32%

「プチブラファッションとはどういうものか知っているか」について尋ねたところ「知っている」と回答した人が全体の80%で、認知度が高いことがわかった。また、プチブラを意識しているかどうかを尋ねたところ、プチブラを知っていて意識している人が32%、プチブラを知っているが意識していない人が48%であった。この結果、プチブラを知っているが意識していないという割合のほうがやや高いことがわかった。

(4) トップス1着に対して高いと思う金額は5,000~9,999円が6割

「トップス1着に対して高いと思う金額」について尋ねたところ、0~4,999円の価格帯で高いと回答した人が24%、5,000~9,999円の価格帯で高いと回答した人が63%、1万円以上が高いと回答した人が12%であった。この結果、半数以上の人は5000円未満で服を探していることがわかった。

(5) 服を購入するとき最重要視するのはデザインである

服を購入するときの基準について最も重視して項目を聞いた結果、「デザイン」を最重要視していると回答した人が全体の80%であることがわかった。「値段」が最重要項目と回答したのは全体の15%であった。

## 調査結果について

### <調査概要>

1. 調査対象： 実践女子大生1年~4年生(短大生含む、渋谷キャンパス在生)
2. 調査方法： 質問紙によるアンケート
3. 調査期間： 2015年5月25日
4. 有効回答者数：41人
5. 回答者の属性：【実践女子大学生：学年】3年：90%、4年：10%、

### 【本調査担当チーム】

実践「ペルソナ」研究会

3年 小柳萌子

3年 小林美羽

3年 佐保田未羽

3年 矢古宇真那

## 調査結果データ

(1) 住まいを尋ねたところ、一人暮らしをしている人は全体の31.7%、実家暮らしの人は68.3%であった。アルバイトをしているかも聞いたところ、回答者の9割がアルバイトをしているということがわかった。住まいとアルバイトの実施の有無を比較したところ、実家暮らしでアルバイトをしているという人は96%、アルバイトをしていないという人は4%であった。一方、一人暮らしでアルバイトをしている人は77%、アルバイトをしていないという人は23%となった(図1)。

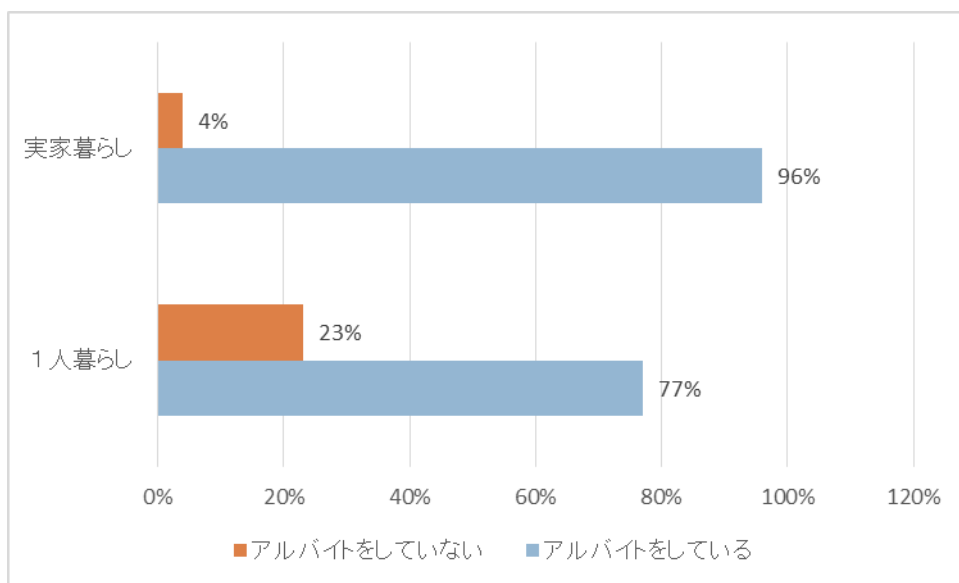


図1. ライフスタイルとバイトの有無 (N=40)

(2) お洒落に気を遣っているかどうか尋ねたところ、お洒落に気を遣っていると思うと回答した人は、全体の63%であった。一方、お洒落に気を遣っていないという人は37%であった。お洒落に気を遣っているという人が回答者の半数を超えたが、大多数ではないことがわかった(図2)。

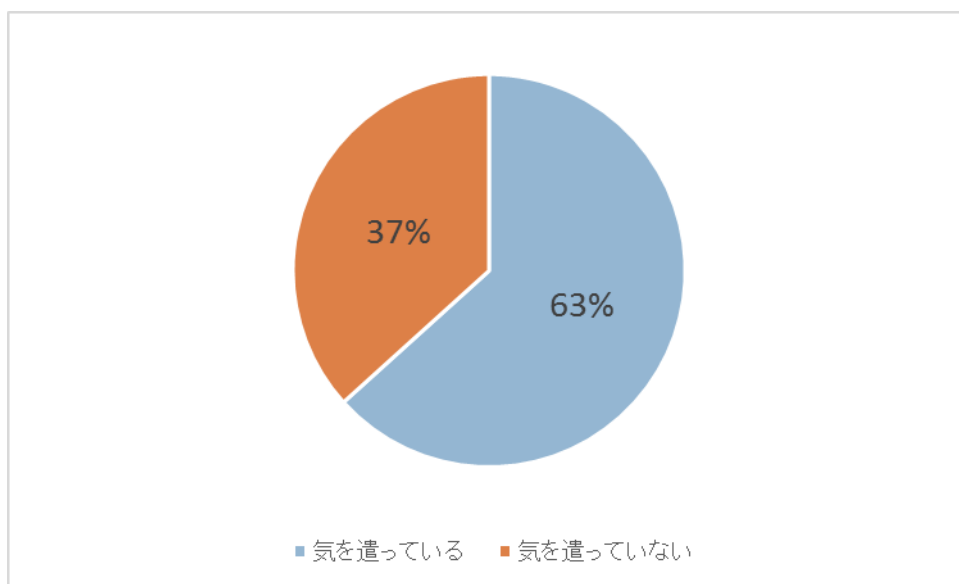


図2. お洒落に気を遣っているかどうか (N=41)

(3) お洒落をどのように捉えているのかを明らかにするために、お洒落とは何かという質問をした。その結果、「自分が良いと思うものを身につける」という回答が最も多く、42%であった。次いで、「小物などをうまく使ってコーディネートしている」が29%で、「他者から似合っていると思われる、評価される」が27%であった。このことから、周りからの評価よりも、自分が気に入っているか、満足するかという観点でお洒落を捉えている人のほうが多いことがわかった。なお、「流行のものを身につける」という回答は2%だった。これについては、「自分が良いと思うものを身につける」という回答の中に、「流行のものでかつ、自分がよいと思えば身につける」という考えが含まれていると考えられる(図3)。

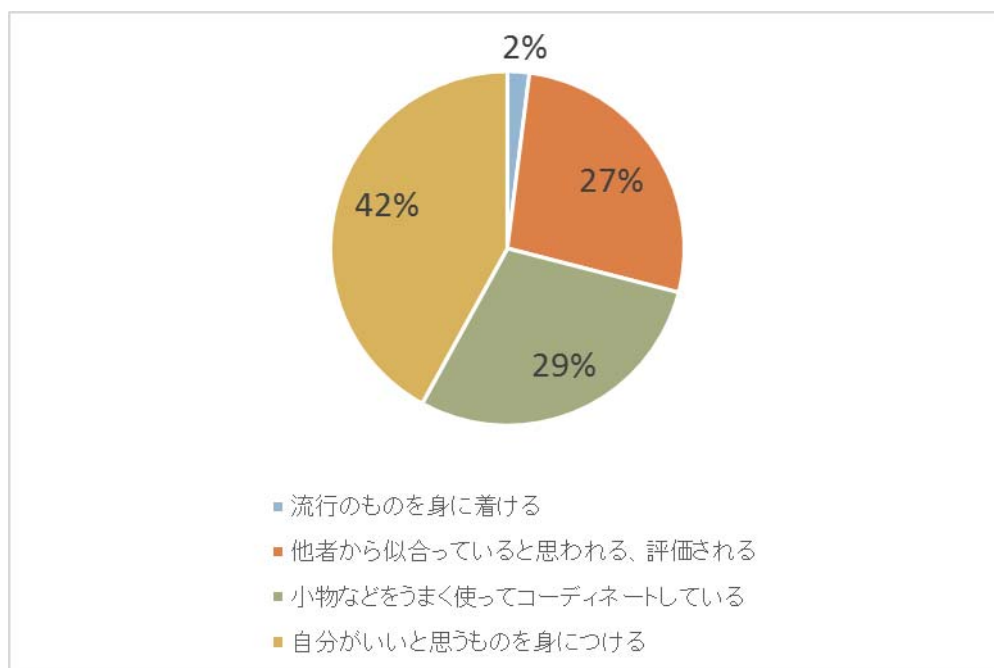


図3. お洒落とは何か (N=41)

(4) お洒落に気を遣っている人と気を遣っていない人の、お洒落の価値観について比較を行った。その結果、お洒落に気を遣っている人の約4割は、「自分が良いと思ったものを身につける」と回答しており、最も高い割合であった。次いで「小物などもうまく使ってコーディネートしている」と回答した人が3割、「他者から似合っていると思われる、評価される」と回答した人が2割であった。お洒落に気を遣っていない人については、「自分が良いと思ったものを身につける」と回答した人が40%で最も高く、「他者から似合っていると思われる、評価される」と回答した人が33%、「小物などもうまく使ってコーディネートしている」と回答した人が26%であった。お洒落に気を遣っている人も気を遣っていない人もお洒落の価値観として、「自分が良いと思ったものを身につける」が最も高い割合を占めているが、「小物などもうまく使ってコーディネートしている」というところへの意識にうっすらと違いが出ているようである(図4)。

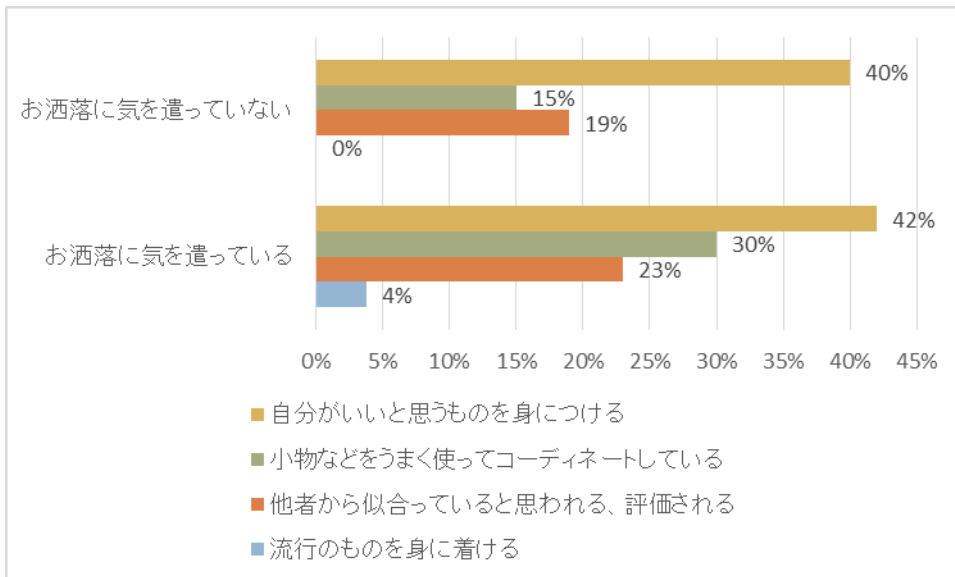


図4. お洒落への気遣いとお洒落についての考え方 (N=41)

(5) プチプラファッションについての認識について質問した結果、「プチプラファッションとはどういうものか」という問いに対して、「知っている」と回答した人は全体の80%で、「知らない」と回答した人は全体の20%であった。「プチプラファッションを知っていて、意識している人」は、プチプラファッションを知っているという回答者全体の32%で、「知っているが意識していないという人」は48%であった。このことから、プチプラファッションの認知度は比較的高いが、意識している人はそれほど多くないことが伺える(図5)。

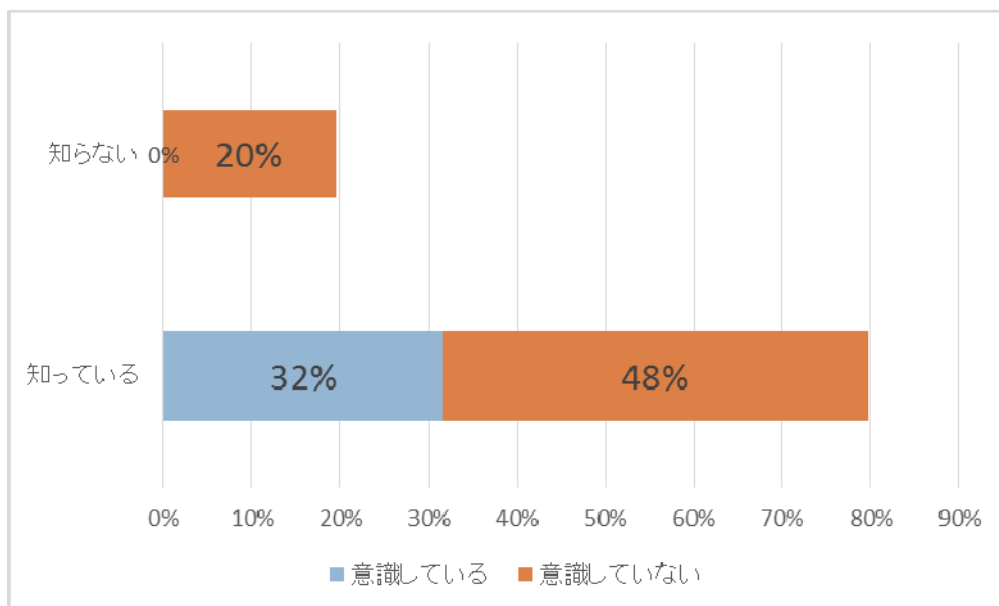


図5. プチプラファッションの意識 (N=41)

(6) トップス1着に対して高いと思う金額はいくらかを具体的に尋ねたところ、5,000~9,999円の価格帯に回答した人が全体の63%で、全体の24%の人は、0~4,999円の価格帯の中で高いとい

う金額を回答していた。この結果、「5,000 円」がひとつの境界になっており、5000 円未満で服を探している人が多いことがわかった（図6）。

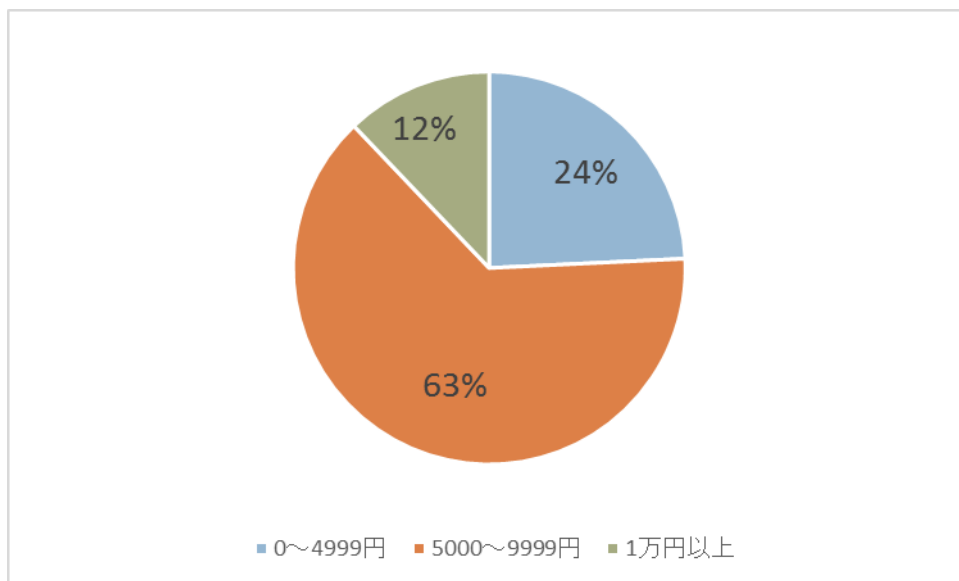


図6. トップス 1 着に対して高いと思う金額 (N=41)

(7) 「トップス 1 着に対して高いと思う金額はいくらか」という質問の回答を、0~4,999 円の価格帯で回答した人、5,000~9,999 円の価格帯で高いと回答した人、1 万円以上が高いと回答した人の3グループに分けた。そして、「自由に使えるお金」と、「お洒落の価値観」についての比較を行った（図7）。その結果、「自由に使えるお金」は、トップス 1 着に対して高いと思う金額が0~4,999 円のグループが平均 5,5000 円と最も金額が高く、次いでトップス 1 着に対して高いと思う金額が5,000~9,999 円のグループの平均 4,8000 円、そして、トップス 1 着に対して高いと思う金額が1 万円以上のグループの平均 4,1000 円で最も低いことがわかった。この結果は、自由に使えるお金が多いグループほど、トップス1 着に対して高いと思う金額が低いことを示している。

また、お洒落についての価値観では、0~4,999 円のグループは、「小物を使ってコーディネートしている」と「自分が良いと思ったものを身につける」と回答した人の割合がどちらも 40%と同率であった。5,000~9,999 円のグループは、「自分が良いと思ったものを身につける」と回答した人の割合が 34%と最も高く、1 万円以上のグループでは「自分が良いと思ったものを身につける」と回答した人が 100%であった。この結果は、自由に使えるお金に関わらず、自分が良いと思ったものを身につけることがお洒落であると考える人が多いということを示している。

	0～4999円
自由に使えるお金(平均)	55,000
トップス1着に対して高いと思う金額(平均)	3,000
お洒落の価値観	小物などを遣ってコーディネートしている/自分が良いと思ったものを身につける
	5000～9999円
自由に使えるお金(平均)	48,000
トップス1着に対して高いと思う金額(平均)	6,000
お洒落の価値観	自分が良いと思ったものを身につける
	1万円以上
自由に使えるお金(平均)	41,000
トップス1着に対して高いと思う金額(平均)	10,000
お洒落の価値観	自分が良いと思ったものを身につける

図7. トップス1着に対して高いと思う金額と自由に使えるお金とお洒落についての価値観比較  
(N=41)

#### (8) 女子大生が服を購入するときに重視する点の優先順位

女子大生が服を購入する際に重要視する点を、「値段」、「デザイン」、「ブランド」、「好きな芸能人が着ている」、「その他」の5つの選択肢を設けて、優先順位をつけてもらった。その結果、服を購入する際に1番重視するのは「デザイン」であることがわかった(83%)。次に重視されるのは、「値段」で(76%)、これを最重要視するという回答は15%にとどまっていた。3番目に重視される項目は、「ブランド」であった(73%)。「好きな芸能人が着ている」ということは、服の購入する際に重視するポイントとしては高くないことがわかる。この結果、今回の回答者の購買行動としては、まずデザインで服を決め、次に値段次第で購入するかどうかを決めていると解釈できる(図8)。

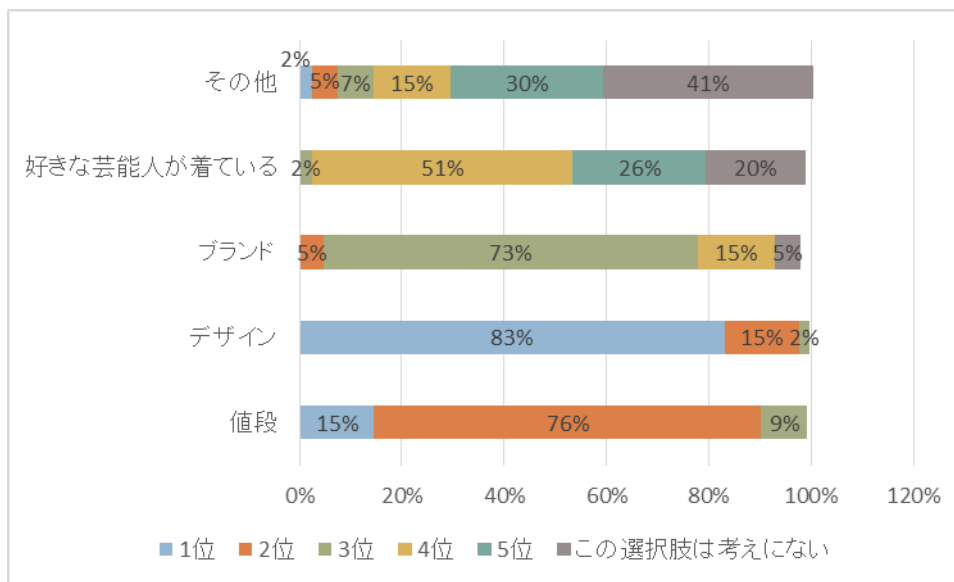


図8. 服を購入するときの基準となるものの優先順位 (N=41)

(9) 欲しい服が自分の予算よりも高い場合にどうするかを尋ねたところ、一番回答の多かったのは「似ている安いものを探す」であった(39%)。次に回答の多かったのが「お小遣いに入る余裕が出るまで待つ」である(29%)。それでも「購入する」と回答したのは全体の15%であり、回答者の多くは、その場で即購入はしないということがわかった(図9)。「似ている安いものを探す」と回答

した人の中には、「プチプラファッションを意識していない」と回答した人も含まれていることから、無意識にプチプラファッション志向の行動をとっている人がいることが伺える。

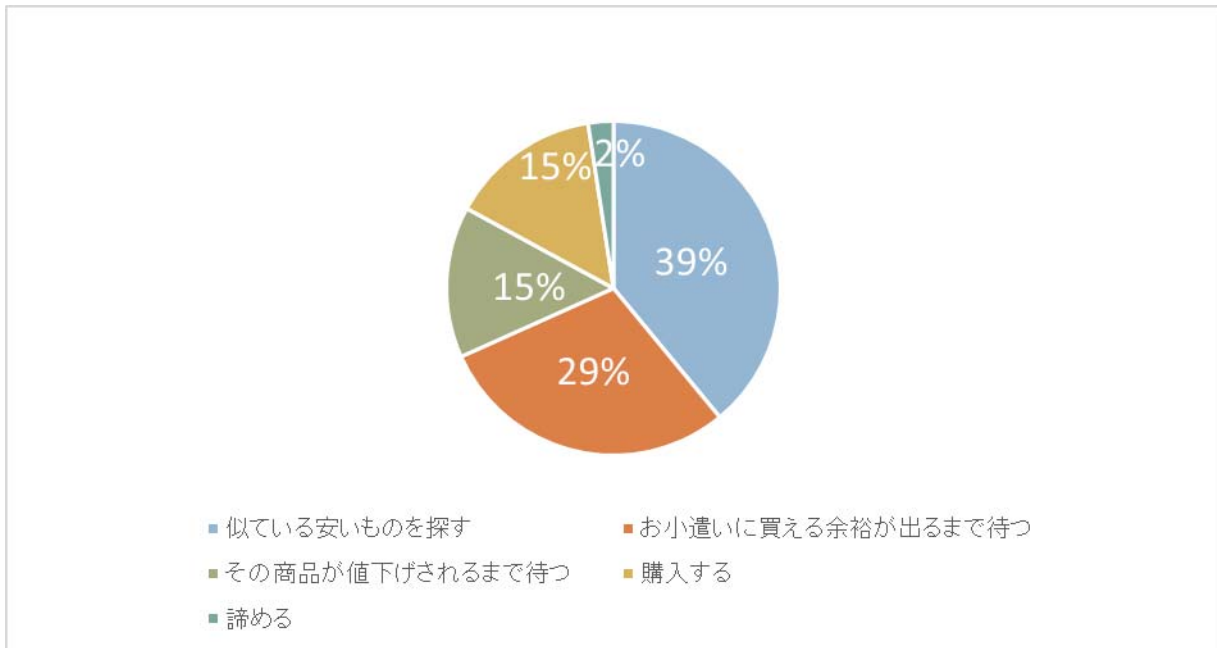


図9. 欲しい服が高かった場合 (N=41)